



世の中は
夢かうつつか うつつとも
夢とも知らずありてなければ。

通りについて

※建物の内部は見れません。
廻船問屋、両替商、酒屋、味噌屋、木賃宿など、伝聞しただけでも島原半島内でも有数の繁華街だったようです。

目の前の船着場から、対岸の福岡・佐賀方面まで海運による商いを行っていた家は「潮屋」と呼ばれ、当時の家勢をその門構えにみることが出来ます。また、「二見屋」呼ばれる家もあり、かつて、眼前に広がる有明海に夫婦様を見ることが出来たのか、もしくは伊勢に漕ぎ出でる二見ヶ浦にこの地を重ねたのか、想像を掻き立てられます。



堀がつかなくなる、どこか懐かしい趣のこの道は、島原半島の入口に位置し、島原藩の往来として、お殿様も利用したと云われています。
また、船津とは船の着く場所のことであり、勝海舟や坂本龍馬が通った時代には、ここまでは有明海が入り込んでいたと考えられ、いたるところにその名残を見ることが出来ます。

雲仙市愛野町

〔船津地区〕



メイン



※建物の内部は
あく船津地区
KAYASHIのみ。

あい娘酒造

雲仙の伏流水に注目した先代が、島原より約七〇年前にこの地へ居を構えたことに始まります。少量ではありましたが、一本一本に愛情を込めた酒造りで、多くの人々から愛されております。



サブ



光西寺

真宗大谷派のお寺として知られる光西寺は、格式ある門構えからその由緒を感じることが出来ます。歩を進めると目を引く銀杏の木には、それを眺める勝海舟と坂本龍馬の姿が浮かぶようです。

周辺地図

